



〈村のチャイルドケアセンターでの集合写真〉

本当の幸せとは何か

〈短期東南アジア実習〉
 明治大学経営学部公共経営学科2年
真野ゆり佳

私はタイの北部のチェンライでボランティアを2週間行いました。ミラー財団というチェンライの少数民族の支援のために活動しているNGO団体を拠点として、村でトイレ作りをしたり、水をせき止めたり貯めたりするための堰作りや、現地の子供たちに日本の文化を教える活動を行いました。



元々東南アジア諸国に興味があったのと、春休みに海外に行きたいという理由だけで参加したこのプログラムでしたが、2週間で本当に様々なことを学ばせてもらいました。どの活動も私にとって刺激的な良い機会でしたが、その中でもトイレ作りで思ったのは、日本の生活がとても便利であるということです。それ以外にも、村人たちもみんな楽しそうで、「本当の幸せって何だろう」と強く考えさせられました。



私たちの身の回りは便利な物で溢れており、村の人たちよりも経済的に豊かです。しかし心から幸せを感じる人は少なく、孤独に蝕まれている人が沢山いるという話をよく聞きます。村人と生活を共にして、人には精神的な豊かさが一番大切なのではないかと思うようになりました。

事前学習で、「私たちが勝手に貧困と決めつけているだけで、実際に現地の人は自分たちを貧困者だとは思っていないかもしれない」ということを言われましたが、行ってみて生活を共にするとこの言葉に納得しました。先進国側がそのような国にレッテルを貼り、可哀想な国だ、何とか援助をしなくてはと考える人も少なくないように思います。「本当の幸せとは何か？」このプログラムはそれを考える良いきっかけとなりました。

〈写真〉右上：村の伝統的な竹の家、左上：トイレを作っている様子